

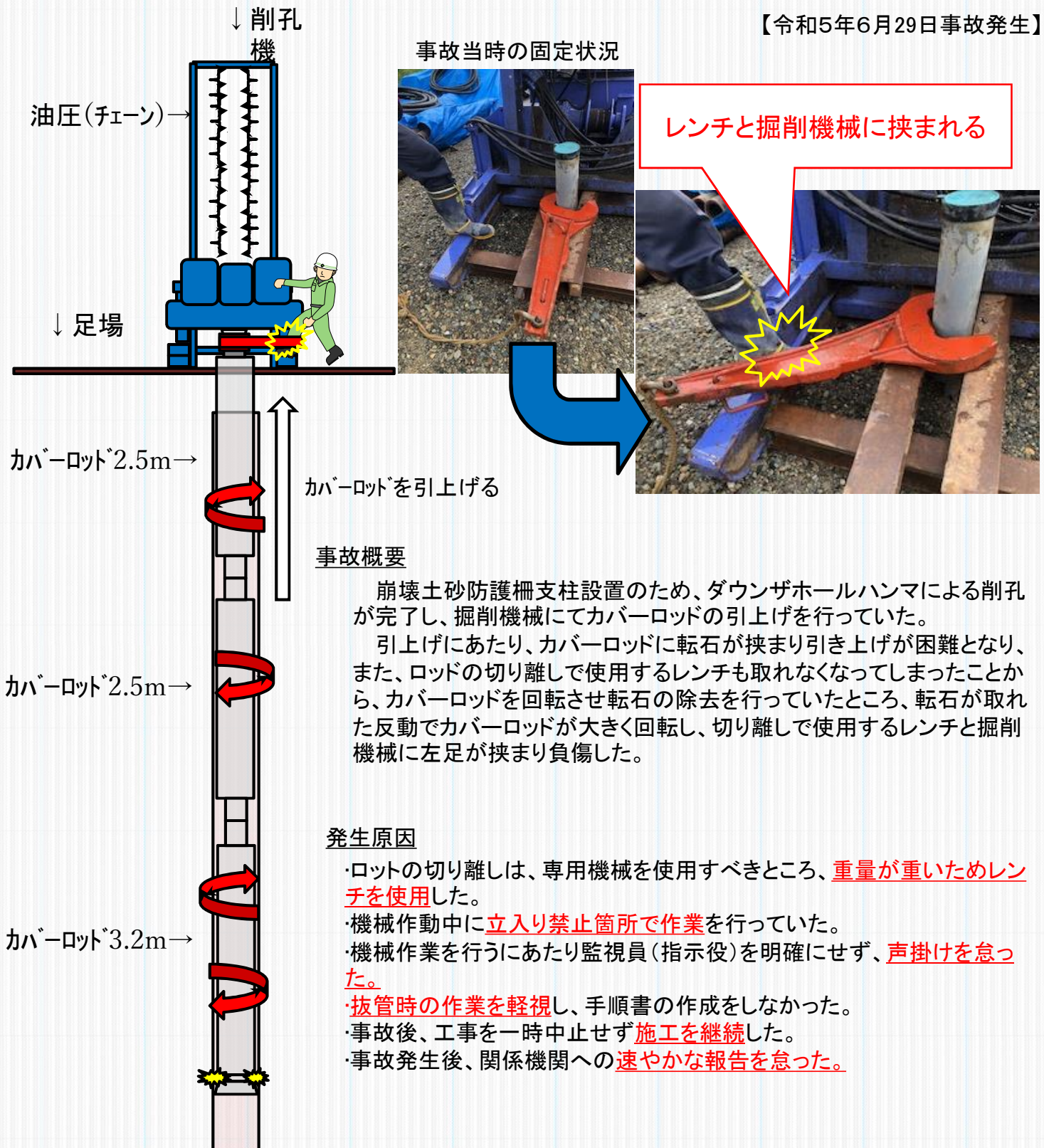
工事事故防止行動計画 ニュースレター

工事事故「0」を目指して

今回は、6月に発生した急傾斜地崩壊対策工事での事故の紹介です。挟まれ・巻き込まれ事故は、傷害事故の中でも、重傷となる場合もあり、注意が必要です。これからも事故事例や事務所独自の取組など情報を発信し、工事事故の防止を図っていきます。

作業員が掘削機械の抜管作業中に、レンチと掘削機械に足を挟まれる

【令和5年6月29日事故発生】



事故概要

崩壊土砂防護柵支柱設置のため、ダウンザホールハンマによる削孔が完了し、掘削機械にてカバースタッドの引上げを行っていた。

引上げにあたり、カバースタッドに転石が挟まり引き上げが困難となり、また、ロッドの切り離しで使用するレンチも取れなくなってしまったことから、カバースタッドを回転させ転石の除去を行っていたところ、転石が取れた反動でカバースタッドが大きく回転し、切り離しで使用するレンチと掘削機械に左足が挟まり負傷した。

発生原因

- ・ロッドの切り離しは、専用機械を使用すべきところ、**重量が重い**ため**レンチ**を使用した。
- ・機械作動中に**立入り禁止箇所**で作業を行っていた。
- ・機械作業を行うにあたり監視員(指示役)を明確にせず、**声掛けを怠った**。
- ・**抜管時の作業を軽視**し、手順書の作成をしなかった。
- ・事故後、工事を一時中止せず**施工を継続**した。
- ・事故発生後、関係機関への**速やかな報告**を怠った。

再発防止策

再発防止策①

専用機械を使用し、レンチを使用しない。

再発防止策②

ロッド回転時の危険範囲を明確化する。



レンチを使用しない

危険範囲の明確化

再発防止策③

掘削機を操作する際は、監視員を指名し、朝礼やKY時に確認することを徹底する。



- ① 監視員（指示者）が声掛けし人払いをする。人払い完了後オペに合図を伝える。
- ② 合図が出たらオペレーターが運転開始の合図を伝える。
- ③ 作業員は運転開始の合図に対して「了解。」等の返答をする。

再発防止策④

ロット抜管時の手順書の作成をし、想定外の作業が生じた場合は作業を一時中断し、作業員全員で手順や安全対策等を確認する。

再発防止策⑤

緊急安全会議を開催し、事故発生状況や事故原因を周知徹底し再発防止に取り組む。

再発防止策⑥

施工計画書に事故等が発生した場合の対応フロー（関係機関への連絡、工事の一時中止措置等）を追記し、徹底する。また、社内で共有し再発防止を図る。